

新型肺炎への喚起！！

中国・湖北省武漢に端を発する新型コロナウイルスによる感染の拡大は、現在留まる様子を見せておりません。現地の情報もかなり不確実な部分がありそうですが、中国以外の国にも拡大しており、26日現在、中国本土以外で13の国と地域で57人の感染が確認されており、日本においても武漢からの来日者から4名が報告されており、まさにインバウンド感染の様相です。

コロナウイルスは以前からかぜ症候群などの上気道感染症をよくひき起こす原因ウイルスとして知られているのですが、新たなコロナウイルスが出現すると、SARS（重症急性呼吸器症候群）のように重症肺炎を起こし、中国・広東省を発端に2002年から2003年にかけて29の地域と国から8000人を超える患者が出て、770人余が死亡する致命率の高い結果となりました。

今回の新型コロナウイルス感染症も当初は、医療職の様な濃厚接触者からの発病がなかったという事ですが、現在は医師や家族の感染が報告され、人から人への感染、そして感染経路としての空気感染も報道されるようになりました。人から人への感染が懸念されるのは、拡大の危険性が増すことは勿論ですが、微生物には宿主を通過すると病原性が強くなる性質があるので、それが懸念されるのです。また、インフルエンザウイルスでの抗原変異が多いことで御承知のように、ウイルスは非常に変異の大きな病原体なのです。現段階では、日本でこれが拡大している状況はないので、今のうちにこれに対する対策を確実に行うことが必要になります。

現状で個人ができる有効な感染防御対策は、インフルエンザの予防と同様に、特に人との接触が予想される外出時にはマスクの着用により、万が一の場合にも、感染者からの咳やくしゃみで飛ばされるウイルスの定着を防げます。また、帰宅時には、うがいによる気道の汚染除去と、手の汚染を除くために丁寧に行う手洗いは重要です。また、咳が出る時には、「咳エチケット」を忘れてはいけません。

このように書くと面倒に思えますが、改めて考えると、日常生活で我々が行っている事の確認なのです。時期的にも今は気道感染症の多い時です。体調の管理に注意し、風邪症状には注意したいものです。

気道感染症の多い年は、肺炎患者が増え、特に高齢者の肺炎での死亡が増加します。高齢社会の日本では、個人の行う防御策が、高齢者への感染のリスクを防ぎ、健康を保持する事にも繋がっているのです。

既に報道で御存知のように、政府では日本人武漢滞在者の帰国手配、「新感染症」への対応と、各省庁との対策に動いております。

令和2年1月27日

東京都女性薬剤師会特任顧問

日本環境感染症学会功労会員

東邦大学名誉教授

村井貞子